

新入生の皆さんへ ~ 図書館には本が沢山あります ~

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学当初は何もかもが新しいので、それに順応するのに精一杯だと思います。学内には様々な施設がありますが、空いた時間に回ってみてはいかがでしょうか。そこで今回、本学の図書館には非常に多くの本があるという事と、学内には2つの図書館があるということをお話します。それを確認していただくために、是非立ち寄ってみて下さい。

さて図書館に初めて来て目にするのは、やはり閲覧室でしょう。閲覧室には様々な本や雑誌等が並べられています。冒頭にも書きましたが、図書館には非常に多くの本があるのですが、閲覧室を見回して多いと思いませんか？ もし少ないと感じたのであれば、それは恐らく高校までの図書室のイメージを持ったままなので、そのように感じるのかも知れません。しかし待って下さい。本学の図書館には約49万冊もの本があるのです。一口に49万冊と言ってもピンと来ないかも知れませんが、これを全て閲覧室に出すことは到底不可能なのです。そこで閲覧室に出ているのは、全体のごく一部になっています。そして残りは書庫に置いてあるのです。ですから閲覧室だけを見て帰るのではなくて、書庫に入って本の多さを実感して下さい。書庫に入ることを「入庫」と言いますが、カウンターでの簡単な手続きだけです。試してみてください。初めて入庫する時はその旨を申し出て、職員に案内して貰う事をお勧めします。いきなり一人で入庫すると、出口が判らなくなり迷ってしまうかも知れません。それほど書庫は広いのです。

次に、学内には図書館が二つあるという点です。図書館というと7号館にある本館だけをイメージする方が多いのですが、実は9号館（国際交流会館）の2階に分館（アジア関係図書館）があるのです。ここには日本語で書かれた中国に関する本や中国語で書かれた本、ヨーロッパ言語で書かれた日本についての本（ニッポナリア）、留学生向けの日本語に関する本等々、合計8万冊以上あります。（上記の約49万冊という数字は、本館と分館の合計となっています。）分館の座席数は44で、閲覧室も広くはありませんが、必要な物は揃っています。本や様々な資料を探すのに欠かせないコンピュータも、台数は少ないものの本館と同じ機能の物が備えられています。特に中国語を学んでいる人は、関係する本や新聞・雑誌は基本的に分館にありますので覚えておいて下さい。分館はコンパクトですが、あまり知られていないせいか利用者は比較的少なく、静かな環境で快適に読書をしたり勉強することが出来ます。分館を知ると、常連になる人も多いようです。このように穴場的な存在ですので、是非ご利用下さい。

折角の約49万冊もの蔵書、そして分館の存在を知らずに卒業してしまうのはとても残念なことです。利用出来る物は十分に活用して、有意義な学生時代を過ごしていただきたいと思います。

ふじい たつや（係長（司書）・アジア関係図書館）